

事業者排出量削減計画書（新規・変更）

(あて先) 京都府知事					
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）		氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名）			
京都市南区久世殿城町338番地		日本電産株式会社 代表取締役社長 永守 重信			
		電話 075 - 922 -			
京都府地球温暖化対策条例第18条第1項（第18条第2項、第18条第3項）の規定により提出します。					
特定事業者の主たる業種	精密小型モータ、中型モータ、機械装置、電子・工学部品などの開発・製造・販売				
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））				
計画期間	平成 18 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月				
基本方針	フロア合計消費電力・A4用紙使用量:2006年度原単位実績値を基準とし3か年で平均3.0%削減。環境活動推進単位別(部署別)環境改善活動テーマ:1件以上/年の推進。				
推進体制	全社的には生産部門副社長を委員長とする環境品質マネジメント委員会の設置による環境マネジメントの効果的運用の推進を行い、当ビルでは管理部門副社長をリーダーとし、全体及び推進ブロック毎の環境目標策定と実践を行う。				
年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	計画内容		
	19	空調設備	EHP室外機の圧縮機運転制御装置を設置し、電力使用量を0.8%削減する。		
	19	電気・空調	運用の見直しによるエネルギーの削減。		
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） (16) 年度 (二酸化炭素換算 (t))	目標年度（計画） (19) 年度 (二酸化炭素換算 (t))	削減率 (計画) (%)	
	A 事業所等排出区分	3,535 t	4704.05 t	33.07 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	
	排出合計	*1 3535 t	*2 4704.05 t	33.07 %	
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			
		取組量等		(二酸化炭素換算 (t))	
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t
削減量等合計			*3 t		
差引排出量 (排出合計 - 削減等合計)	基準年度（実績）	目標年度（計画）	削減率（計画）		
	*1 3535 t	(*2)-(*3) 4704.05 t	33.07 %		
特記事項	1.新入社員フォローアップ研修による琵琶湖湖岸公園の清掃実施予定 2.2007年度、節水装置導入による水道使用量削減を計画中 3.2003年度、太陽光発電設備の設置 4.本社従業員数、H16年度比19.2%増(H16年度:520人/月→H18年度:620人/月) 5.H18年より電力購入を一般電気事業者からその他の電気事業者に変更。 6.変更計画書は電力使用量を社員数増(H18年度比約4.8%増)と同割合で増やしている。				
連絡先	担当部署				
	担当者氏名				
	住所				
	電話番号				
	ファクシミリ番号				

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは、京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは、自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは、上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO₂排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。